



# どの子にも“笑顔”あふれる社会に ～体罰に関する意識調査から子育てを考える～



2020年4月に「子どもへの体罰」が法律で禁止されました。この法律は、子育てを社会全体で応援・サポートし、体罰によらない子育てを社会全体で推進することを目的としたものです。

今回は「2021年版 子どもに対するしつけのための体罰等の意識・実態調査結果報告書」から、保護者の体罰等に対する意識の実態をみてみましょう。

**問** 人権推進課 ☎088・684・1148 生涯学習人権課 ☎088・686・8803

## ▼ 体罰についての意識

- ・子どもに決して体罰をすべきではないと考えている回答者は約6割。2017年調査(前回調査)と比較し、体罰を容認する回答者が減少した一方、いまだに4割を超える人が体罰を容認しています。
- ・性別では男性、年代別では40～50代、第一子年齢別では10～18歳の子どもがいる回答者が体罰を容認する傾向がみられます。

## ▼ 体罰の内容による意識の違い

- ・前回調査と比較して、子どもをたたく行為を容認する回答者の割合が減少しました。しかし、依然として「こぶしで殴る」「物を使ってたたく」「加減せず頭にたたく」を容認する回答者が6～8%、「お尻をたたく」「手の甲をたたく」を容認する回答者が、約5割存在しています。

## ▼ 子どものころを傷つける罰についての意識

- ・ころを傷つける罰について、前回調査と比較して容認する回答者の割合が減少しました。しかし、依然として「にらみつける」「怒鳴りつける」を容認する人が、それぞれ約3～4割存在しています。

今回の調査から分かりますとおり、現在も体罰を容認する保護者が一定程度存在しています。

しかし、体罰は子どもの成長・発達に悪影響を与えることが科学的にも明らかになっており、体罰が繰り返されると心身にさまざまな悪影響が生じる可能性があることも報告されています。この調査結果をもとに「よりよい子育て」について、各家庭で改めて考えてみませんか。